

かつしか野村クリニック(東京都葛飾区)

レベルの高い技術と設備で
内視鏡検査を実施。
かかりつけ医としての親しみやすさも
人気の秘密。

開業1年で、すでに1日の平均患者数が100人という「かつしか野村クリニック」。地域のかかりつけ医として総合的な診療を行う一方で、高いレベルの専門性も打ち出し、幅広い年齢層の地域住民から支持されている。



医療機関の少ない立地環境

東京都の北東部に位置する葛飾区。映画「寅さん」の舞台となった柴又帝釈天のあるところといえば、エリアの特色がほぼ推測できるだろう。都会ながらも下町的なコミュニティが残り、それだけによそから来た人間が溶け込むには少し時間がかかることもある。そのような土地柄に、地縁なしで昨年2月開業したにもかかわらず、またたく間に地域住民たちの厚い信頼を得ているのが「かつしか野村クリニック」だ。

同クリニックが立つのは、人通りの多い駅前でもショッピングセンターの隣でもない。最寄りのJRの駅から車で15分はかかるし、バス道路から1本脇道に入ったところにある。建物自体のデザインも特別に凝ってはおらず、大きな看板に気づかなければ通り過ぎてしまいそうだ。このような立地環境でうま

くいくのかと思ってしまうが、同クリニックの野村哲也院長は「全く不安はありませんでした」とさりと話す。

実際、同クリニックは開業以来、患者数は伸び続け、今や1日の平均患者数は何と100人。それ以上の患者が訪れる日も珍しくないというから驚きだ。

その理由を野村院長は、「この付近には病院が少ないからだと思います。この物件を決めた理由もそこにあります」と話すが、果たしてそれだけだろうか。

身近な診療所とはいえ、患者サイドとしては、やはり少しでもレベルの高い医療を求めたいはず。野村院長は筑波大学卒業後、東京医科歯科大学第一内科に入局。その後は国立がんセンター東病院内視鏡部や順天堂大学消化器内科などで約10年間、内視鏡を専門に技術を磨いてきた。内視鏡検査を経験した人ならおわかりだろうが、検査医の技術レベルによって、飛び上がるほどの痛みを覚えたり、逆にほとんど痛みがなかったりと大きな差が現れる。